

平成 30 年度 第 2 回みんなで支える南信州地域会議議事録

- 1 日時：平成 31 年 3 月 15 日（金）13 時～17 時
- 2 開催場所 現地及び飯田合同庁舎 502・503 号
- 3 出席委員（5 名）木下委員 柄澤委員 松下委員 間瀬委員 原委員
（内田委員 下平委員 中島委員欠席）
- 4 事務局 土屋局長 三澤林務課長以下 6 名
- 5 議事内容

現地 1：阿智村 智里 みんなで支える里山整備実施地 13 時 50 分～14 時

説明：飯伊森林組合

<原委員>

現地質問 1) 一部森林所有者が不明で、一体的に整備できなかったとのことだが、よくあることなのか。

現地回答 1) よくあること。

現地質問 2) どこまでが搬出し、どこからが切捨てか。

現地回答 2) (図面で説明)

現地 2：阿智村 昼神温泉 観光地等魅力向上森林景観整備事業地 14 時 20 分～ 14 時 30 分

説明：阿智村役場

現地質問 3) 伐採木は搬出したのか。

現地回答 3) 搬出にはお金がかかり過ぎてしまうため切捨てである。

会議：飯田合同庁舎 502.503 号会議室 15 時 10 分～17 時

- ・資料 1 活用事業の実績（見込み）について
- ・資料 2 基本方針の改正について
- ・資料 3 平成 31 年度予算にについて

<原委員>

- ・平成 31 年度予算で、今まで踏み込んでいない部分に踏み込んできたという感想。

こういう委員をやらせていただいているため、いろいろな山の関係者との会議などで、森林税で何をしなければならないかと聞くと、一番多かったのはライフライン沿いの倒木を「森林税でなんとかしてほしい」という意見。

そういう意味で良かったと思うし、県内でもそういう意見が多かったんだと思う。

また、集団ではなく、単木でもよいというのは、よく踏み込んだと感じている。

質問1) 山と関係のない街の中の樹木はだめなんですか。

回答1) あくまでも、森林に沿ったライフラインに対し危険な木が対象。

質問2) どのように申請すればよいのか。

回答2) 事業主体は市町村となる。なお、里山整備方針の中に対象箇所を入れることが必要。

市町村に相談してほしい。

質問3) 市町村の持ち出しはあるのか。

回答3) 補助率9/10で検討されているので、若干の持ち出しがある。

<間瀬委員>

- ・市町村にとっては、補助率9/10でもいただければありがたい。
- ・どこの市町村でも該当箇所がいっぱいある。立ち木の所有者も村でない場合が多いので、所有者と話しをしながら進める。

<原委員>

質問4) 資料には目標値として、5年間でライフライン55カ所、県管理道路沿線の15カ所と書いてあり、一年で11カ所と3カ所となるが、もっと危険箇所があるのではないか。

<間瀬委員>

- ・主要なライフラインとなっており、村道や林道は無理な感じがする。
- ・県管理道路では、道路区域内なら道沿いの支障木伐採はしてくれる状況にある。

<原委員>

- ・今回は、道路区域外でもできるということは、新しく踏み込んでいます。

回答4) 詳細(要領)が決まっていないので、どの程度までが対応となるか不明。

<原委員>

- ・はっきりしたら教えてほしい。

<木下委員>

質問5) 子どもの居場所木質空間整備に、今年度2千万の予算がついているが、これは公共施設でなくても、民間施設でも申請してよいのか。

回答5) 今年度は実際、社会福祉法人の保育園に支援させていただいた。特に市町村の施設でなければいけないということはない。

質問6)それは良い事業であるが、このような事業があることに、みんな知っているのか。私は知らなかったが、どこを介して伝わるのか。

回答6)対象になるようなところについては、年度当初に説明をしている。うまく伝わっていくように方法を検討したい。

<間瀬委員>

- ・大鹿村では、金額は少ないですが、大鹿の道の駅に遊具を置いた。それは県の方から情報を得た。大鹿村は小さいので、村から情報をお知らせするかで違ってくると思う。

<木下委員>

- ・民間でも活用したい方は多いのではないかと。実際に投げかけてあげないと、伝わらないのではないかと。

<原委員>

・公募と書いてあるので、県庁から各部署が管轄する保育園とか、幼稚園とか、社会福祉法人と

か、そういうところに情報をおろすと情報が流れて、こんないい事業があるんだ、となるのではないかと。

<間瀬委員>

- ・(大鹿村)保育園には情報が来ていました。役場は逆に保育園から情報を得ました。

<原委員>

- ・それならいいですね。

<木下委員>

- ・竹林抱えて困っている。3~4人でグループを作れば何か事業ができると聞いているが、そういうこともなかなか皆さん知らない。そういうのをどうしたら知らせることができるか。

<間瀬委員>

- ・役場では、地域の方が言ってくれば、県へ相談し、合う事業の情報を教えてくれる。
- ・何かやりたいときは、市町村の担当者への相談が一番話が進むと思う。
- ・県民の方に森林税を活用した事業を知らしめるということは、一番難しい。

<間瀬委員>

- ・各市町村のイベントなどで森林税を周知してはどうか。テント一張って言っていただければ、大鹿ではいつでも用意しますので。その時に、PRだけでなく、木育の体験もで

きると、子供が来て、親も来て、これは森林税を活用してますよというPRになる。大鹿は、いつでも協力する。

< 松下委員 >

質問8) 新たに森林環境贈与税が国の方で始まるが、重複してしまうというのではないのか。

回答8) 国会で審議中の森林環境贈与税ですが、各新町村での人工林森林面積などに応じて贈与されるというもの。法律上、森林整備の促進に関するものに関して使ってくださいということで、ある程度用途を広く使えると聞いている。

森林税の活用事業については、事業の目的に則して使っていただくので、重複はしないと思われる。

なお、森林づくり推進支援金はその目的からすると重複する可能性がある。

来年度からは、支援金と森林環境贈与税は同一事業に重複で使われないように市町村でチェックしていただく仕組みとなる。

< 間瀬委員 >

・大鹿村は、来年度500万円くらいいただけるとの試算がある。どういうものに使おうかということですが、10月頃に譲与されるので、6月頃に予算を組む予定。基金にも積み立ててよいと聞いている。不在地主の関係で使ってくれという国の方針があるので、そうゆうことに使っていきたいと考えている。

< 原委員 >

質問9) 木下委員の問題意識と同じで、こんなにいっぱい楽しいことやっているのに、どうやってみんなに伝えるのか。又は伝わるのか。

例えば、子供のおもちゃとか、木工体験とか、受益者に森林税を使ってこんなことができましたとSNSをしていただくとか。みんな結構繋がっているのでは。行政がこのようなパンフを流してもなかなか広がらない。

< 間瀬委員 >

・大鹿村では、広報誌に載せている。

< 原委員 >

・危険木も倒したとか、一番困っていた人に森林税で解決しましたと流してもらえば絶対広がる。

回答9) 慈光保育園(子どもの居場所)は、ロッカーを6台入れていただいたが、保育園

独自に資料を作っただき、保護者の集まりの時に配布してくれたり、それをHPにアップし広報してくれている。なるべく、そういうことが広がるような形にしていきたい。

<原委員>

・HPにアップされても、アクセスしない限り見れないので、アクセスしなくても、受益者に感動をSNSでつづってもらう。そうすれば広がると思う。

<柄澤委員>

・アンケートで森林税を聞いたことがあるかの問いに対して、聞いたことがあると答えている方が多く、増えていることを実感している。また、森林税が里山の整備等に使われていることを知っているかの問いに対して、まだまだ、認識が少ない(知っている、大体知っているが約50%)。森林組合の職員として悲しい。

質問10) 県民協働による里山の整備・利用事業は、実績補助か？

回答10) 計画補助です。

質問11) 計画したものを全部使ってもらうということか。

回答11) 計画書で事業費も提示していただき、補助率10/10以内ということ

で、要望いただく。補助金額については、予算があるので、調整がある。

今年度、要望いただいた箇所については、ほぼ全額ご支援できた。

実際やってみて、経費がかからなかった場合は、かかった経費分のみ対象となるので、減額変更して交付となる。

<原委員>

質問12) 平成31年度の概要で、薪によるエネルギーの地消地産事業で「身近な里山資源である薪を継続的に利用する仕組みを構築」とあるが、どういうことを考えているのか。

自分のNPOでは、中京圏からの炭の需要が多い。クヌギ・ナラはどんどん需要が上がっており、意外なほど売れる。

中京に持って行かなくとも、身近なところで地消地産してほしい。

地産地消の薪ストーブユーザーを増やすことはよいこと。

回答12) 地域で生産された薪を地域循環して使われるような仕組みづくり、薪流通の仕組みをモデル的に作っていくことを今年からやっており、公募で事業を実施している。今年度は、上伊那・長野・北アルプスの振興局で実施と聞いて

いる。残念ながら当管内では応募がなかった。他の管内での具体的な取り組みをしているか情報はないが、次回の会議で報告できると思う。

<原委員>

・知っているだけでも、薪づくりを我々と他のグループで3つくらいあるので、この地域の消費者を増やすという仕組みにできればと考える。どんなことが対象となるのか、また他地域の様子を情報提供願いたい。

<間瀬委員>

質問 1 3) 薪スタンドとは別物か。

回答 1 3) いままでなかったところでの新たな仕組みを作るということで、例えば、薪の需要量を調べたり、薪の保管庫とかの資機材を導入したりという内容。